

みなさんの「地域づくり」の活動を応援します

第21回

F U T U R E C R E A T I O N 2 0 2 0

中部の未来創造大賞



第21回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展と啓発を促進しようとするものです。第21回目にあたる今回は36件の応募をいただきました。表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件、奨励賞6件が選考されました。本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■受賞の対象

- ・受賞の対象は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県における社会資本整備及びその利用・保全に関する活動に顕著な貢献が認められるもの
- ・個人又は、団体(自治体、企業、NPO等)を対象



NPO法人
チームみらい中津川市防災市民会議



佐屋高校 文鳥プロジェクト



愛知県立南陽高等学校
Nanyo Company部



角文株式会社



特定非営利活動法人
チーム道行電



防災ママかきつばた



静岡県立掛川西高校パソコン部



一般社団法人 静岡建設業協会



さくらの架け橋会



特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島



第21回「中部の未来創造大賞」について	1
大賞	
ふるさとの森を守れ! 「松毛川千年の森」再生プロジェクト 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島	3
優秀賞	
高校生が主体的に地域活性化! 掛川城プロジェクトマッピング 静岡県立掛川西高校パソコン部	5
優秀賞	
「子育てママがつなぐ、防災まちづくり」 産官学ママ連携で、助け合いができるまちへ 防災ママかきつばた	6
優秀賞	
逢妻川の環境ESD ～地域の子どもたちと共に「感性」を鍛える～ 角文株式会社	7
中日新聞社賞	
みらいを拓く防災 NPO法人チームみらい中津川市防災市民会議	8
中部経済連合会賞	
高校生発!環境配慮型商品の開発・販売を通じた 買い物で選ぶ町づくり 愛知県立南陽高等学校Nanyo Company部	9
奨励賞	
地域の安全と環境を守る、巴川河川美化清掃活動 一般社団法人 静岡建設業協会	
村半～飛騨高山の町屋建築を舞台とした 若者による地域の未来づくり～ 高山市若者等活動事務所 村半	
伊那谷活性化プロジェクト ～私たちがデザインするMIRAINAカンパニー～ 長野県上伊那農業高等学校 コミュニティデザイン科グローバルコース	
人口37人の集落「道行電」の挑戦! 日本酒プロジェクト 特定非営利活動法人 チーム道行電	
白文鳥の町弥富を再び ～弥富文鳥文化復活を目指して～ 佐屋高校 文鳥プロジェクト	
視覚障害者にもやさしい「公的トイレ改良 大作戦」 さくらの架け橋会	10
選考を終えて(表彰委員より)	11
これまでの主な受賞活動	11

ふるさとの森を守れ!「松毛川千年の森」再生プロジェクト



特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島

〒411-0857 静岡県三島市芝本町6-2
TEL 055-983-0136
URL <http://www.gwmishima.jp/>



静岡県三島市と沼津市の市境に位置する「松毛川」(沼津市では「灰塚川」と呼ぶ)は、昭和初期の堤防工事によって三日月形の止水域となった総延長約1.3km、樹林と湖沼面積約6haの狩野川の旧河川敷であり、上・中流部には、樹齢100年以上の巨木を含む、数千本の樹木から構成される河畔林が自然堤防を形成しています。

しかし近年、水質汚濁の進行、治水機能の低下、ゴミの投棄、外来生物の侵入、河畔林の枯死・倒木、放置竹林の拡大、河川土羽の崩壊といった様々な環境被害の進行とともに、地域住民・所有者の高齢化による管理放棄が問題になっていました。

そこで本会では、2003年以来17年間にわたり、「松毛川千年の森づくり」として、総延長約2.4kmにわたる放置竹林の伐採、6,000本以上の植林、止水域全面に繁殖したホテイアオイの排除、2tトラック数百台分にも及ぶゴミの除去、三島市側に残る個人所有の私有地である貴重な河畔林のトラスト運動による買収など、地域協働による森づくり・自然環境再生保全活動に取り組んできました。

今後は、県営地域用水環境整備事業との連携による「ミチゲーション工事」の実施や、市内の水辺空間と松毛川を結ぶ「水と緑のネットワーク」の創出、環境再生活動の学校や企業の実習・研修の場としての活用、住民主体の維持管理組織の育成など、多様な森づくり活動を継続して、松毛川を「生き物たちの楽園」「千年の森・ふるさとの森」として未来に継承していきます。



地域住民や行政によるゴミや産廃物の清掃



学生や地域住民による放置竹林の伐採作業



潜在自然植生の植樹(企業・住民との協働)



松毛川(灰塚川)空中写真(手前が狩野川)

高校生が主体的に地域活性化！ 掛川城プロジェクションマッピング



静岡県立掛川西高校パソコン部

〒436-0054 静岡県掛川市城西1-1-6
TEL 0537-22-7165
URL <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/kakegawanishi-h/home.nsf/IndexFormView?OpenView>



静岡県立掛川西高校パソコン部は2017年から掛川城でプロジェクションマッピングを行っています。「日頃応援してくれている掛川市の地域活性化を高校生自らの手で行いたい」という思いで始まりました。掛川城で8回行っているこのイベントは、高校生が企画、準備、プロジェクションマッピングの作成、当日の運営といったすべての活動を行っています。

この取り組みのポイントは以下の二つです。

一つ目は、学校外の機関と連携したプロジェクションマッピングによる地域活性化です。持続可能な地域活性化を模索して、市役所、第三セクター（かけがわ街づくり株式会社）、地元企業、国内外の学校と連携しながら行っています。またSNSやHPを活用した発信や世界（インドネシア・タイ・韓国と映像制作をコラボ）と繋いだ遠隔ビデオ会議（Zoom）などの活用を通して高校生の多様な学びとなっています。

二つ目はプロジェクションマッピングやイベント開催のスキルをどのように地域に普及させるのかということです。全国的な地域活性化を目指して小中高生に「プロジェクションマッピングやイベント開催のスキル」を普及する活動も行っています。つまり本校生徒が他者への伝達を通して成長するのみならず、他校や地域の小中学生が成長することも視野に入れています。このようにSociety5.0に向けた科学イノベーションの創出を担う人材育成の一助として普及、発展することを目的としています。



掛川とインドネシアの高校生がオンラインでミーティング



地域や世界とコラボした掛川城プロジェクションマッピング

「子育てママがつなく、防災まちづくり」 産官学ママ連携で、助け合いができるまちへ



防災ママかきつばた

URL <https://ameblo.jp/bosaimama/>



防災ママかきつばたは、乳幼児親子を対象に防災啓発活動に取り組む市民団体です。

いつ起こるか分からない大地震。一人でも多くの親子のみなさんに、防災・減災について知って、備える大切さを伝えています。

防災意識の低さが問題視されていますが、何を取り組んでいいのかわからない、学べる場が少ないことが課題です。さらには、乳幼児の親子が参加できる防災の勉強会は少ないです。

当団体は、キッズスペースや託児を設け、親子で参加できるよう企画・実現しており、コロナ対策の現在では、いち早くオンラインツールを取り入れ、2020年3月11日には60名以上を集めて防災講演会をオンラインで行いました。2020年ではオンラインを活用し、256回活動、延べ2661名に向けて防災啓発を行うことができました。その中で、ご協力していただきました、企業・行政・教育機関・親子、地域のみなさま・防災関係者のみなさまには感謝でいっぱいです。

新たに、FacebookLIVEを活用したライブ配信を毎週1回行い、オンラインで防災の大切さを気軽に発信し、視聴者の質問にもリアルタイムで答える場を作っています。

また、活動しているスタッフ自身の自己成長を促し女性の社会進出、社会起業家として成長できる土台作りの場にもなっていると思います。

このように、乳幼児親子が学ぶだけではなく、その学んだ内容を体験・実践できる場を作り、防災意識を高め、地域のつながりを強くし、親子から地域全体で自助・共助ができる社会を目指しています。

今後も、今回の受賞を励みとして、すべての親子のみなさんが防災・減災に取り組めるよう、産官学民そしてママ連携で、協働して進めていきます。



時代に合わせて、柔軟に活動しています



防災の絵本「ちきゅうくんのくしゃみ」を制作し、防災講座に取り入れています

逢妻川の環境ESD ～地域の子もたちと共に「感性」を鍛える～



角文株式会社

〒448-0004 愛知県刈谷市泉田町古和井1
TEL 0566-22-1811
URL <https://www.kakubun.com/>



総合建設業・不動産開発業の当社は2003年、都市開発が進み自然が失われる中、地域への恩返しと環境を守るCSR活動として環境共生をテーマに、創業140周年記念事業として本社敷地内にビオトープを造設。2005年から毎年刈谷市立富士松南小学校4年生児童を対象にホタルの飼育、幼虫放流会を実施。ホタルの生息条件でもある水質を追求し、2008年から学区を流れる「逢妻川」の環境学習を開始しました。「感性を鍛える」を活動理念とし身近な生態系に触れることで、生き物や自然環境に対し、子ども達自らが考え行動する力を養うことを目的に活動に取り組んでいます。

逢妻川の環境学習は、年間の学校のカリキュラムとして採用して頂きました。川の調査で採取したゴミは「大人の出したゴミ」と「子どもが出したゴミ」に分別します。圧倒的に多い大人のゴミを見て子どもたちが感じたことを発表します。ゴミを減らすにはどうしたらいいのか、ゴミが生き物に与える影響など、子どもたちの「感性」を鍛える体験教育を行います。指導スタッフには、当社社員のほか教師を目指す愛知教育大学生が参加し、環境学習での活躍が期待されます。

逢妻川を知ることで環境問題を身近な課題としてとらえ、地域に根差した環境ESDを企業と学校が連携・協働して活動を展開しています。これからも単に環境意識を教える教育ではなく未来ある子どもたちに気付かせる教育を根底において持続可能な活動を行ってまいります。



川の生き物、ゴミ採取



「感性」を鍛える

みらいを拓く防災



NPO法人チームみらい中津川市防災市民会議

〒508-0006 岐阜県中津川市落合2649-5



本会は、2004年の中越地震から活動している防災と災害ボランティアの団体です。2011年の東日本大震災では、宮城県石巻市内で総力を上げて活動し、現在もそのご縁を大切にして、復興のお手伝いをさせていただいています。その後も全国各地の現場で得られた災害ボランティア活動の成果や教訓を、地域防災訓練に活かしたり、地域防災の担い手を自ら育成するため、6年前から中高生を対象とする東海防災青年塾を一年コースではじめています。また、昨年から女性を対象とした東海防災レディースハートも開始いたしました。

昨年末には、コロナ禍の災害後「集団生活できない、集団生活したくない人のための書き込み式防災個人ノート」を、本会で自主制作しました。大変好評をいただき、一千部以上が防災教育啓発に活用されました。

本会では、続編として、小学生向けの防災冊子を現在制作中です。



コロナ禍のR2年12月に作成の冊子



長野県千曲川水害で、一日の災害ボランティア活動を終えて



愛知県立南陽高等学校Nanyo Company部

〒455-0861 愛知県名古屋市港区大西二丁目99
TEL 052-301-1073
URL <https://nanyo-h.aichi-c.ed.jp/b-nanyo%20company.html>



愛知県立南陽高等学校Nanyo Company部は平成22年度に創部し、商品の開発・販売、地域イベントへの参加等を通して地域貢献を目的とした活動を行ってきました。そうした地域貢献の一環として環境にも目を向け、平成24年度よりカーボンオフセット制度を活用し、温室効果ガス排出量ゼロ弁当の開発や、温室効果ガスゼロイベントの提案等を行い、学校行事や地域のイベントでも温室効果ガス排出量を削減してきました。こうした取組は新聞や各種マスコミにも取り上げられ、様々な団体から表彰を受け、令和元年度には地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞するなど波及性も高い取組となっています。

本校が所在する名古屋市は、「環境問題解決に向けた積極的な行動を起こすべきだ」という市民の割合を増加させる政策を打ち出していました。そこで、地域貢献の一環として環境問題解決の一助となるべく、カーボンオフセット制度とCOOL CHOICEを活用し、環境意識向上に向けた啓発グッズの開発と配布、環境配慮型商品の開発と販売を行うことで、市民や事業者の意識の向上を図り、販売で出た利益については植林や公園や街路樹などを守る取組に寄付をすることで、SDGsの実現にも寄与する環境に配慮した一つのサイクルを作り上げています。

これからも地球環境にも配慮した商品を生産・流通に携わる皆さんに提案し、そうした商品を消費者の皆さんに提供することで、「買い物で未来が選べる町づくり」を実現したいと思います。



SDGsの目標達成に向けた、環境に配慮した商品開発と販売・寄付に至る一連の流れ



★Nanyo Company部の部員と開発した環境配慮型商品



活動名 ● 地域の安全と環境を守る、巴川河川美化清掃活動

受賞団体 ● 一般社団法人 静岡建設業協会

清掃活動を続けている巴川は、1974年7月7日の七夕豪雨により氾濫し、静岡市内の流域の住宅地に大きな被害が発生しました。これを契機として、翌年度より地域の安全を確保し社会に貢献する活動として、また七夕豪雨を忘れないために活動が始まり、45年以上も継続して毎年6月に約100名の会員が参加して約500mの区間の草刈りと清掃を行っています。



活動名 ● 村半～飛騨高山の町屋建築を舞台とした若者による地域の未来づくり～

受賞団体 ● 高山市若者等活動事務所 村半

古い町並の中心部にある大規模で歴史的価値の高い町家を公有化し、若者の活動を主眼とした拠点施設「村半」として改修整備しました。

地元高校生による学校の垣根を越えた意見交換、若者グループによる交流、市外からの大学生による地域資源との接続の場等として利用され、人とひと、人と飛騨高山のまちを結び付けることによる持続可能なまちづくりを目指しています。



活動名 ● 伊那谷活性化プロジェクト～私たちがデザインするMIRAINAカンパニー～

受賞団体 ● 長野県上伊那農業高等学校 コミュニティデザイン科グローバルコース

伊那谷は、さまざまな生命を育む里地里山と、伝統産業を守る人や先進産業に挑戦する人が交わる、豊かな学びの機会に恵まれた場所です。私たちグローバルコースが挑戦する「MIRAINAカンパニー」とは、高校生が主体となって、伊那谷をフィールドに命に学び、地域をデザインする組織であり、地域課題を自らの問題として捉え、自分と伊那谷をデザインしていきます。



活動名 ● 人口37人の集落「道行竈」の挑戦! 日本酒プロジェクト

受賞団体 ● 特定非営利活動法人 チーム道行竈

道行竈はかつて平家の子孫が移り住んだ人口37人の限界集落。地域住民が大学や役場と協働で耕作放棄地を活用して米づくりを行い、自ら「純米吟醸道行竈」、「道行竈のお米」を販売しています。“日本酒造り”をきっかけに先祖から受け継いだ水田を復活させ、竈方の誇りや文化を守り継ぎながら、若い世代も道行竈で生活できる仕組み作りを目指し活動しています。



活動名 ● 白文鳥の町弥富を再び～弥富文鳥文化復活を目指して～

受賞団体 ● 佐屋高校 文鳥プロジェクト

白文鳥誕生の地である愛知県弥富市は、最盛期には200軒以上の文鳥農家がありましたが、現在消滅の危機となっています。そこで農業高校生である私たちが、弥富文鳥文化を未来へ繋げていくことを目標に活動しています。現在は、大学と連携して遺伝資源保存に向けて繁殖を行っています。また、地域と連携して文鳥を観光資源としても活用する取組を実施しています。



活動名 ● 視覚障害者にもやさしい「公的トイレ改良 大作戦」

受賞団体 ● さくらの架け橋会

様々な障害を抱えたみなさんと一緒に安心安全な街づくりの活動を行っています。その一つが、視覚障害者にとって使いやすい公共トイレの提案です。行政、デザイン専門学校の生徒さんの協力のもとに、今年度は県内道の駅のトイレに男女マークなどの立体ピクトを設置しました。今後も、さらなる問題点の拾いだし、そして全国への普及に向けて活動を続けていきたいです。



中部の未来創造大賞では次のような活動を表彰しています。

1. 住民、企業・学校、行政等が工夫して取り組んでいる地域づくりの活動で、以下に該当するもの

- 生活・自然環境の保全を行っているもの
- 景観の向上を行っているもの
- 観光資源として活用しているもの
- 地域づくりに関連した情報発信を行っているもの
- 資源の再利用を行っているもの
- 公共施設の整備にあたって、コスト縮減等に有効な新技術、新工法の研究開発を行っているもの

2. 災害時の人命救助、復旧活動や防災に関する活動

3. 伝統的な建造物の保存、復興等を行っている活動

第22回「中部の未来創造大賞」の募集 ■令和3年5月下旬に募集開始予定

委員長 三重大学名誉教授 渡邊 悌爾 わたなべ ていじ

応募された活動は、長年地域の環境保全や地域づくり、防災活動などに取組まれ、地域の持続的発展のために貢献されました。

若い方々の活動も独創的で更なる発展への希望を抱きます。地道で継続的な活動に尽力下さった全ての団体に感謝と敬意を表します。

副委員長 駿府静岡歴史楽会 事務局代表 竹内 礼子 たけうち れいこ

地域づくりの活動には様々な形があり、これまでは大地に対して直接はたらきかける活動が目立っていたが、最近は近くの人にも遠くの人にも声をかけ力を出す人も見守るだけの人も受け入れ、その場では結果が出ない新しい形が生まれているように思う。

委員 名古屋大学大学院教授 小松 尚 こまつ ひさし

今回も長年、精力的に取り組まれた数多くの活動を審査できたことは、私にとってコロナ禍における清涼剤のようでした。中でも高校生による活動は、学習の域を超え、ポストコロナの未来創造を期待させてくれました。

委員 名古屋工業大学教授 増田 理子 ますだ みちこ

応募いただいた様々な取り組みを拝見し、多様性に驚かされました。特に高校生や若い子育て世代の取り組みなどが目を引きました。また、長年にわたって活動されている方々も多くこれからの中部地方の未来を担う役割を果たしておられることに感銘を受けました。

選考を終えて（表彰委員より）



委員 中日新聞社事業局次長 長坂 誠 ながさか まこと

地域に根ざした、郷土愛が伝わる活動が増え続けているのを実感し、うれしく頼もしく思う。活動歴に長短はあるものの、各団体とも若い人や女性の参画が増え、SNS等による情報発信も多彩で、新たな時代にふさわしい内容になっている。コロナ禍を乗り越え、活動の輪が一層広がると確信する。

委員 (一社)中部経済連合会常務理事 栗原 大介 くりはら だいすけ

各団体が、地域の発展・活性化のため継続的に情熱を持って活動に励んでいる姿に感動しました。

コロナ禍で閉塞的な時期だからこそ、各団体の取り組みがより一層地元のコミュニケーションを円滑にし、元気の源になるものと期待しています。

委員 国土交通省中部地方整備局 企画部長 林 正道 はやし まさみち

今回、所属や年齢を超えた多様な主体が地域課題の解決に一体となって取り組んでいる姿が印象的でした。コロナ禍にあっても、他団体とのつながりを深めるなど、ますます活動を活性化させている取組もあり、中部の未来を担う熱意を感じました。

こうした活動が、この地域の持続的な発展を支えていく原動力となることを期待します。

中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・静岡市・浜松市・名古屋市・中日本高速道路株式会社 名古屋支社 名古屋高速道路公社・独立行政法人 水資源機構 中部支社・地方共同法人 日本下水道事業団 東海総合事務所 独立行政法人都市再生機構 中部支社・公益社団法人 土木学会 中部支部・一般社団法人 中部地域づくり協会 一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部・一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部・一般社団法人 長野県建設業協会 一般社団法人 岐阜県建設業協会・一般社団法人 静岡県建設業協会・一般社団法人 愛知県建設業協会・一般社団法人 三重県建設業協会 株式会社中日新聞社 後援／一般社団法人 中部経済連合会

FUTURE CREATION 2020

中部の未来創造大賞

主催／中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞

で 検索

中部の未来創造大賞推進協議会事務局

国土交通省 中部地方整備局 企画部 企画課 — TEL (052) 953-8127

一般社団法人 中部地域づくり協会 業務管理部 — TEL (052) 962-9455

URL <https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/mirai/index.htm>

